

イタリア式避難所システムをもととした実働訓練(実証実験) 実施要領

1 目的

イタリア式避難所システム※をもととした長野県の被災者支援関係機関による総合的な実働訓練(実証実験)を実施することで、被災地外からの包括的な支援方法(個々の被災者に寄り添った避難所の設置・運営、温かい食事の提供、支援者のための支援拠点の設置など)の有効性を検証し、県内外に発信する。

さらに、訓練成果をもとに、新たな被災者支援の取組を推進し、今後の「日本の被災者支援」の変革を促す。

※あらかじめ備蓄された資機材等を活用し、被災地に支援拠点を設置。主に訓練された民間の支援者が支援活動を行う。被災者数に応じて支援単位が決定される(1単位:被災者250名に支援者50名を投入)。

2 日時

令和7年3月21日(金)9:00~15:00 (一部は前日20日(木)より実施)

3 場所

諏訪市「旧東洋バルヴ諏訪工場跡地」(諏訪市湖畔通り5-11)

4 主催・協力

(1)主催

長野県災害支援ネットワーク(通称:N-NET)

社会福祉法人 長野県社会福祉協議会

一般社団法人 避難所・避難生活学会

株式会社シェルターワン(清水建設発ベンチャー 3月末起業予定)

(2)協力

清水建設株式会社

KOA 株式会社・一般社団法人伊那谷財団

公立大学法人 長野県立大学

伊那市、諏訪市、長野県

5 主な訓練参加機関等

長野県災害時支援ネットワーク(N-NET)構成団体

・特定非営利活動法人 長野県 NPO センター(N-NET 事務局・訓練総括)

・一般社団法人 ながの移動販売つなぎ局

・公益財団法人 長寿社会開発センター

・特定非営利活動法人 日本防災士会 長野県支部 ほか

長野県社会福祉協議会・諏訪地域の社会福祉協議会

特定非営利活動法人 ながのこどもの城いきいきプロジェクト

(長野市緊急時における子ども支援ネットワーク事務局)

6 災害の想定

2025年3月20日(木)05:47、諏訪市を震源としたマグニチュード7.3(阪神・淡路大震災クラス)直下型の地震が発生。最大震度7。

長野県災害時支援ネットワークでは、発災当日 20 日に先遣隊を諏訪市に派遣。行政・社協などの関係機関との調整を経て、翌日 21 日(金)にイタリア式の支援拠点を設置し、民間支援団体等とともに被災者への支援活動を開始。

7 訓練の内容

(1) 支援拠点設置訓練

- ・仮設トイレ、仮設シャワー、家族用テント(冷暖房付き)、食堂(大型テント、暖房など)の設置
- ・支援拠点本部(大型テント)の設置、支援者の活動拠点の設置

(2) 本部運営訓練

- ・支援本部機能の確保
- ・情報共有会議の開催、全体の支援調整(コーディネーション)の実施
- ・避難者の状況把握、要配慮者への支援調整((コーディネーション)の実施

(3) キッチンカーによる食支援訓練

- ・キッチンカーによる分業型セントラルキッチンの設置
- ・避難者・支援者用の「温かい食事」200食分の調理
- ・避難者・支援者への食事の提供(配膳)、廃棄物処理

(4) 緊急時の子ども支援訓練

- ・「緊急時の子ども支援ガイドライン」に沿った居場所の設置

(5) DWAT(災害派遣福祉チーム)訓練

- ・DWATによる支援の検討・実施

(6) 災害ボランティアセンター(VC)設置訓練

- ・VC設置に向けた調整

8 主な訓練の流れ

時間	支援者	避難者
08:00	主催者集合・訓練手順の確認	
09:00	「支援者」集合	
09:00～09:10	支援者への訓練内容の説明	
09:10～10:00	テント等の設営	(自由見学)
10:00		「避難者」集合
10:00～10:30	コーディネーション体制構築 ①全体方針の決定(支援本部) ②全体情報共有会議 ③班ごとの作戦会議	避難者への訓練内容の説明
10:30～11:00	要配慮者情報の収集・集約	避難者は個々のテント内に避難
11:00～13:00	被災者支援の実践 ①リーダー会議 ②良好な生活環境の確保 ③要配慮者対応の実施・まとめ ④支援者情報入力(アプリ) ⑤食事体験	
12:30～13:00		食事体験
13:00～14:00	コーディネーション ①リーダー会議(情報集約) ②全体情報共有会議(支援調整) ③全体方針の決定(支援本部) ④班ごとの作戦会議	
14:00～14:30	振り返り	振り返り
14:30～15:00	訓練成果の共有	訓練成果の共有

9 その他

雨天決行。

ただし、訓練当日もしくは訓練日前に長野県内において大規模な災害の発生、または災害の恐れが生じた場合、もしくは主催者が必要と認めた場合には訓練を中止する。